



株式会社バイナリーの沿革と変遷

1 会社の概要

- ・ 会社商号 株式会社バイナリー
- ・ 設立年月日 1982年(昭和57年)11月24日
- ・ 所在地 新潟県柏崎市(仮事業所)を現在準備中

URL <http://www.binary-inc.co.jp>

mail info@binary-inc.co.jp

- ・ 代表取締役 栗原 秀時
- ・ 資本金 1000万円
- ・ 事業内容 あらゆるソフトウェアシステム(メインフレーム、パソコン、スマホ、マイクロプロセッサ)の開発と設計

2 システム開発の理念

『ものを造ることができる』これは単純ですが重要なことです。もの造りの原点とは独創性に他なりません。無理に適応させる為の順応策ではなく、弊社は独自の進化への試行策を探求し続けます。宇宙の真理を探求すると、総ての科学は一体であると確信することができます。

Binary Specifications.

すべてがリンクし関連し合った自然の摂理に他なりません。
学術分野の垣根を越えて、より自然な、本来あるべき関係を見出した者こそが
新しいテクノロジーへの扉を開くことができるのです。
『萬有一体』とは、弊社が技術開発を進める上での基本方針となるものです。

3 会社の沿革

弊社バイナリーは、1982年(昭和57年)にソフトウェア会社として設立され、およそ30数年間あらゆる
コンピュータシステムの開発一筋に邁進してまいりました。
メインフレーム(大型汎用コンピュータ)からパソコン、マイクロプロセッサに至るまで、開発環境こそ様々ですが
提供する独創的なソリューションは、皆様から絶大なる信頼をいただいております。

- 1973年(昭和48年)以降、『日本電気 NEAC 2200シリーズのOS(オペレーティングシステム)開発』を始めとして
『旧三井銀行の貸付・外為オンラインシステム』、『住友信託銀行のローンシステム』
『首都圏労働金庫預金オンラインシステム』、『丸紅鉄鋼部の予決算システム』
『(株)旺文社の在庫管理システム』等々の開発に従事してきた栗原秀時(現代表)の個人事業所として発足する。
- 1982年(昭和57年) 有志盟友の賛同を得て、東京都豊島区駒込に
『株式会社バイナリー』として法人登記される。

Binary Specifications.

その後、第一中央汽船の『船舶運航管理システム』、日刊スポーツ新聞社の『自動編集システム』(株)旺文社の『大学入試模擬試験システム』、(財)日本英語検定協会の『実用英語検定システム』等の開発に全面的に参加協力して高い評価を得る。

- 1995年(平成7年) 自動車用マイクロプロセッサ DTS(デジタル チューニング システム)の試作に成功する一方

(株)旺文社のパソコン版学習システムの開発に全面支援協力するなど、開発の主力をメインフレームからパソコンやマイクロプロセッサへと移行するきっかけとなる。

- 1999年(平成11年) 新規業務のため、千代田区三崎町に本社を移転登記する。

(株)リクルートの『大学入試事典・推薦入学事典』、の自動編集システムを開発する。
チケットぴあ、グルメぴあの会員管理、サイト管理システムなどの開発を協力支援する。

- 2001年(平成13年) 業務拡張のため、新宿区山吹町に本社を移転登記する。

『教育関連システム』を中心に、『メインフレーム』と、『パソコン』を繋ぐ、インターフェース部分に特異性を発揮し弊社独自のハイブリッドDB(Pockets DB)を開発し、業務の効率化に貢献する。

Binary Specifications.

- 2009年(平成21年) 更なる飛躍のため、本社を港区白金に移転登記

同じく高輪に事業所を新設し活動を開始する。
- 2012年(平成24年) 東京ビックサイトでの、「教育ITソリューションEXPO」に独自開発システムを出展し
長年培ってきた、その独創的な教育システムは、高い評価と賛同を得る。
- 2013年(平成25年) 厚生労働省の『障害者自立機器等開発促進事業』にスマホを使った
『携帯版ガイドヘルパー(SYNAPS)』を応募し、事業説明会に出席。
- 2016年(平成28年) 新潟事業所設立構想の市場調査と具体策の立案を開始。

以来、『文・教育ソリューション』はもちろんのこと、あらゆる業種の様々なシステム開発に、その『独創性と斬新性』
『萬有一体』の開発理念をもって邁進している。